第８章

コロナ出現にアメリカ政府が関与の疑い

―高名なる医学誌『ランセット』コロナ調査委員会委員長の暴露

チェコの首都プラハで「EUとNATOの方針に加担するな」という巨大な集会

https://www.rt.com/news/562282-protest-prague-czech-eu/

1

相変わらずウクライナ情勢は転変と緊張を重ねてきています。ザポリージャ原発への攻撃は核兵器を使ったと同じ惨劇をもたらしかねません。

ＩＡＥＡ（国際原子力機関）の現地調査は原発を攻撃しているのはキエフ側であることを自分の眼で確認できたはずです。その意味で、この現地調査は大成功でした。

しかしＩＡＥＡの現地調査の公式報告書は、その原発攻撃の張本人を固有名詞で名指ししていません。アメリカからの圧力はそれほど強かったと言うべきでしょう。

したがって、ウクライナ情勢について書きたいこと書かねばならないことは山積しているのですが、他方で「最近のコロナ情勢についてのコメントがほしい」と言われているので、それをいつまでも放置しておくわけにはいきません。

そこで以下では、最近のコロナ情勢について私見を述べることに集中することにします。

2

大手メディアの話題には、以前にも述べたことですが、内外を問わず一致した奇妙な振幅があります。

つまりコロナが沈静化し、ワクチン被害が一般人の目に見えるようになったとき、コロナ騒ぎがメディアから姿を消し、ウクライナ問題がメディアを賑わせました。そして、コロナの「悪魔化」が、ロシアとプーチン大統領の「悪魔化」へと一変しました。

それと同時に、ゼレンスキー大統領の「英雄化」とキエフ軍の「進撃」「勝利」がテレビ画面を占領することになります。

しかし、最近は、ロシア軍が意外と強いことが分かり、むしろキエフ軍の劣勢が伝えられると、今まで自分たちが言っていたことの間違いを認めるのが都合悪くなったのでしょうか、再び話題がコロナ騒ぎに戻ってきた感があります。

日本のメディアの場合、これには二つの要因があるように思います。

ひとつは、安倍晋三元首相が暗殺され、岸田政権が元首相を「国葬」にしようとしたら、予想外に国民の反対が強く、支持率が急落したので、国民の関心をコロナ騒ぎへと転換させようとしたとも考えられるからです。

なぜなら『謎解き物語3』最終章で詳述したように、PCR検査を使えば感染者が急増しているという数値は簡単に捏造（ねつぞう）できるからです。そのCt値（増幅回数）を操作すれば、あっ

という間に感染者は増えます。

ですからＷＨＯもＣＤＣも、ＰＣＲ検査を使う際には「要注意」を呼びかけましたし、ＣＤＣに至っては、二〇二一年一二月末日をもってＰＣＲ検査の使用をやめると宣言し、今は使っていないのです。

ところがこのことを『謎解き物語3』で強く警告したにもかかわらず、日本では相変わらずＰＣＲ検査が使われてきました。

大手メディアも私の知るかぎり、どのようにして感染者数を把握しているかに関心をもっていません。これでは政府がコロナ騒ぎを利用して世論操作をすることは極めて容易です。

ですから、私が1日2回の散歩に出かけていても、出会う人のほとんどすべてがマスクをかけたままです。しかし炎天下のマスクは熱射病の原因になります。そこまでいかなくても、「マスクが不愉快→免疫力低下→体調不良→死亡」という悪循環になりかねません。

3

こんなことを続けていては、個人レベルだけでなく企業レベルでもお客が減り、倒産になりかねませんし、失業→病気→自殺という悪循環につながります。そこで『謎解き物

語3』では次のような危険性も指摘しました。

「PCR検査による感染者拡大を理由に病院や介護施設では面会謝絶しているところがほとんどなので、入院者・入所者は妻や息子や孫にも会えず、それで気持ちが落ち込んで免疫力低下→死亡になりかねない」

事実、私は、埼玉の施設に入院している弟のお見舞いに行きたくても、「感染者拡大＝面会謝絶」という理由で面会できませんでした。

岐阜から埼玉まで遠距離であるにもかかわらず、いま会わないと永遠に会えなくなるかも知れないと考え、思い切って重い腰をあげ、面会に行こうと決断したにもかかわらず、この私の願いはかないませんでした。

だからこそ、どういう検査をしているかが気になって、岐阜新聞・岐阜県庁・岐阜市役所に電話をして「どのようなCt値を使って検査しているのか」と尋ねてみたところ、驚いたことに、Ct値（増幅回数）という概念すら知らなかったのです。（前掲書の終章）

4

それはともかく、私がそんな状態で面会できないまま、弟は、亡くなりました（それどこ

ろか、弟は妻や息子や孫にも会えないまま）。私が拙著で予言したとおりの状態のなかで弟は亡くなったのです。享年75歳。

しかも死因は、担当医によれば「心不全」で、コロナ死ではありませんでした。『謎解き物語1』の副題は「コロナウイルスで死ぬよりもコロナ政策で殺される」でしたから、まさに副題どおりになりました。

ＰＣＲ検査の矛盾は教育現場でも如実です。たとえば私が主宰する研究所の研究員からの訴えも切実です。次のような声すら聞こえてきます。

「学校が全体的に暗くなった。生徒に活気がなくなった」
「学校ではマスクが強制されているので、子どもたちの交流が制限され、生徒の顔から明るさが全く消えてしまった」
「しかもiPadを使った授業も強制されるから、生徒同士が話し合って交流するなかで学力を伸ばしていくという授業も非常にやりづらくなっている」
「機械操作に慣れるための時間ばかりが増えていって肝心の授業ができない。これでは生徒の学力が伸びていくはずがない」

5

つまり、感染者数を増やして世論操作をしていることが真実だとすれば、このことが日本の経済や日常生活・学校生活を疲弊させ、景気回復がいつまでたっても実現しないことになるわけです。

そのうえ、生徒の表情は暗くなり、自殺者も増えました。

しかも岸田政権はアメリカの意向に沿ってロシアへの経済制裁に加担し、中国包囲網を強化することに熱心ですから、ますます日本経済の復活は難しくなります。

ヨーロッパでも、アメリカの指図に従って経済制裁に加担したばっかりに、ロシアの天然ガスや石油が入ってこなくなり、今年（二〇二二年）の冬が越せるかという心配が増えています。

次の記事は、九月四日にチェコの首都プラハで「チェコは中立を守れ、キエフに加担するな」という7万人以上もの巨大な集会が開かれて、政府の指導に抗議したというニュースです。

＊ Winter is coming: Prague's 70,000-strong protest shows what's in store for Europe
「迫り来るエネルギー危機の中、プラハで7万人規模の反政府・反NATO・反EUのデモ」
http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1044.html（『翻訳NEWS』2022/09/20）

チェコの首都プラハで巨大集会
「EUとNATOの方針に加担するな」

1週間後に、オーストリアの首都ウィーンでも同じような集会が開かれました。

つまり欧州ではコロナ騒ぎはほぼ収まりましたが、政府が今までに取ってきたコロナ政策に国民は大きな不満を感じていました。事実、先述のプラハの集会でも、ウィーンの集会でも、参加者は誰もマスクをしていません。

フランスでは、マクロン首相はコロナ騒ぎのおかげで「イエローベスト（YellowVest）運動」を鎮圧できました。ですが、コロナ騒ぎが沈下したからでしょうか、再び「イエローベスト運動」がパリを中心として復活し始めました。しかしやはり、誰もマスクをしていませんでした。

その不満をそらすために、政府は今度は、「ロシアとプーチン大統領の悪魔化」という政策に転換しました。ですが、民衆はそれにも強く反発しています。

6

今ではアメリカでもコロナ騒ぎは事実上、終わっています。ＣＤＣ（疾病管理予防センター）も、二〇二一年秋すでに「ＰＣＲ検査は二〇二一年一二月三一日をもって取りやめにする」と言っていますし、二〇二二年二月には次のような論文も現れました。

＊ After COVID, we must embrace critical thinking again「Covidは終わった。今こそ批判的思考力を取り戻そう」http://tnmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1045.html（『翻訳NEWS』2022/09/23）

しかも、この論文の副題は次のようになっていました。

＊ Blind submission to authority has to stop, now that we are coming to the end of the pandemic

「権威への盲目的な服従は止めなければならない。パンデミックの終わりに近づいている今こそ」

つまり、「今まではＣＤＣの指示のもとに、ロックダウンやワクチン政策に盲目的に従ってきた。だがもはや、そのような権威に対する盲従はやめ、批判的思考を身につけよう」と言っているのです。

多分このようなコロナ政策の嘘を見破られたと思ったのでしょうか、「コロナの帝王」と呼ばれてきたＮＩＡＩＤ（国立アレルギー・感染症研究所）所長ファウチが、二〇二二年いっぱいで辞任することを八月二二日に表明しました。

＊White House coronavirus czar resigns（大統領官邸「コロナの帝王」が辞任）
https://www.rt.com/news/561325-fauci-resigns/　Aug 22, 2022

7

これを受けて非常に面白いニュースが流れました。共和党上院議員ランド・ポールが「辞任するファウチを逃がすな！」と、ファウチ訴追のために下準備をする必要があると公に表明したからです。

＊Senator lays groundwork for potential Fauci probe
「『辞任するファウチを逃がすな！』共和党上院議員が証拠品の保管を要求」
http://tnmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1008.html（『翻訳NEWS』2022/09/05）

この記事の副題は次のようなものでした。

＊Rand Paul has demanded that records and communications be saved as he looks to investigate the US COVID-19 czar
「米国のコビド帝王ファウチの調査に向けてランド・ポール議員は記録や通信の保管を要求」

そのことを、この記事はさらに次のように述べています。

> ランド・ポール（共和党ケンタッキー州選出）上院議員は、大統領首席医療顧問のアンソニー・ファウチ博士がＣＯＶＩＤ-19の世界的流行対策において果たした負の役割を追求することを

誓い、ジョー・バイデン政権に対し、ファウチ博士に関する文書や通信を保管するよう求めた。

これらの文書や通信が、この先予想される調査において証拠品になる可能性があるからだ。

ランド・ポール議員は上院の公聴会においてファウチと論争を交わした経験がある。それは、危険なウイルスの研究をおこなう可能性のある研究施設に資金を提供していたかどうかについての論争だった。

そのポール議員が、八月二三日(火)に国立衛生保健所(NIH)に書簡を送った。その内容は、「コロナの帝王」ファウチの文書や通信を保管しておくことを求めるというものだった。

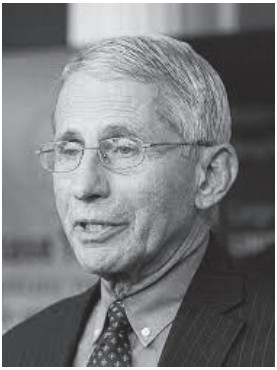
この要求が出されたのは、ファウチがこの一二月に、バイデン大統領の首席医療顧問とNIHの国立アレルギー感染症研究所(NIAID)所長を退任することを発表した翌日のことだった。

ポール議員は、八月二二日(月)に同博士が辞意を表明したことを受けて、「ファウチ博士が辞任してもパンデミックの起源についての調査を求める大きな声が妨げられてはなりません」と語った。

さらに、武漢ウイルス研究所からCOVID-19が漏洩したかどうかについての議論についても言及し、真実を述べる誓約をおこなった上での証言が求められる、と述べた。

ポール議員は以前、ファウチ博士を非難していた。同博士が武漢研究所におけるウイルスの「機能獲得」研究に対して直接、資金を提供しながら、その件について偽りの証言をしたからだ。真実を述べると宣誓したばかりの議会証言だったにもかかわらず。

ランド・ポール上院議員


アンソニー・ファウチNIAID所長

所があったことを発見し、その証拠物件を接収し、「新型コロナウイルスの出現にアメリカ政府が加担していた可能性あり」と指摘しました。

＊ US government may be complicit in emergence of COVID, Russia
「米国政府はCovidの出現に加担しているかもしれない、とロシア」
http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1048.html（『翻訳NEWS』2022/09/21）

これにたいしてヌーランド国務次官は「ウクライナに生物兵器研究所がある」ことは認めましたが、コロナウイルスに関しては、それはロシアのプロパガンダだと否定しました。

たしかにWHOもCDCも「新型コロナウイルス」は武漢の生鮮物市場が発生源であり、アメリカが資金援助していた武漢ウイルス研究所が発生源である可能性については、強く

8

ロシア軍は、ドンバス2カ国の独立を認め、その要請にしたがってウクライナに進攻しました。その際、ウクライナ全土に46カ所にも及ぶ生物兵器研究

否定していました。

しかし、「新型コロナウイルス」が研究室でつくられた疑いがあるという点では、他の研究者からも意見が出されていました。その最も有名な例がフランスのリュック・モンタニエ博士でした。（『謎解き物語３』１２９～１４２頁）

ところがモンタニエ博士は、ノーベル生理学・医学賞の受賞者であったにもかかわらず、例によって、「陰謀論者」として欧米の世論から袋だたきにあい、氏の意見は闇に葬られたまま他界してしまいました（二〇二二年二月八日）。

これが暗殺だったのかどうかは分かりませんが、権力にとっては都合の良いことでした。

というのはモンタニエ博士は、先述したように、「ＷＨＯが推進しているワクチンは、遺伝子組み換えワクチンであり、本来のワクチンではなく、「集団殺戮＝人道にたいする罪」だとして、ＩＣＣ（国際刑事裁判所）に提訴していたからです。

＊ Holocaust survivors join Lawyers, Dr Fleming, and Prof Luc Montagnier in demanding the International Criminal Court charge World Governments with Crimes against Humanity Genocide, and breaches of the Nuremberg Code（ホロコーストの生存者が、弁護士、フレミング博士、モンタニエ教授とともに、ＩＣＣ国際刑事裁判所に要求。ＩＣＣは世界各国の政府を「集団殺戮、人道にたいする罪、ニュルンベルク綱領違反」という罪で告訴せよ）
https://dailyexpose.uk/2021/09/26/holocaust-survivors-dr-fleming-prof-motagniericc-genocide-crimes-against-humanity/

リュック・モンタニエ博士

この記事は『翻訳NEWS』では次のようになっています。

＊「ホロコーストの生存者たちがワクチン停止をＩＣＣ国際刑事裁判所に訴えた」
http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-724.html（『翻訳NEWS』2021／11／29）

9

このように、いったんは闇に葬られていたかのような「新型コロナウイルス＝実験室でつくられたウイルス」説でしたが、ここに思わぬ事態が生じました。

というのは、バイデン大統領やファウチＮＩＡＩＤ所長にとっては都合の悪いことに、有名な医学誌ランセットが「ＣＯＶＩＤ-19調査委員会委員長」として任命したジェフリー・サックス博士（コロンビア大学教授）が、「ＣＯＶＩＤ-19の出処はアメリカの生物研究所である可能性」を示唆したからです。次の論考は、そのことを詳しく論じています。

＊ Prof. Jeffrey Sachs on the COVID Origins Cover-Up
「『新型コロナの起源』の隠蔽について。ランセット誌 Covid-19 調査委員会委員長ジェフリー・サックス教授の主張」
http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1038.html（『翻訳NEWS』2022／09／19）

この論考では、サックス教授の論文と主張について次のように紹介しています。

ジェフリー・サックス教授の長文かつ詳細な議論のどこにも、ウイルスを作り出したとして中国を非難する記述がなく、またウイルスが漏洩したとされる武漢の研究所についてさえ彼が言及していないことは、非常に興味深いことである。

その代わりにサックス教授が特に注目しているのは次の二つだ。

（1）新型コロナに似た改変コロナウイルスの生産を目的とした米国の大規模な生物工学的取り組み

（2）新型コロナの明らかに人工的な特徴を隠すための政府周辺の科学者による集中的な取り組み

サックス教授は、多額の資金が投入された生物兵器の研究、そしてこれらのプログラムが数十年前に国防総省の直接的な権限からアンソニー・ファウチの所属する国立衛生研究所（NIH）に移されたことを論じている。

そして、国防総省が出資するピーター・ダスザック博士のNGOエコヘルス・アライアンスが、明らかに情報収集の役割を担っていることに言及している。そのNGOが

ジェフリー・サックス博士

武漢の研究所や世界中の多くのバイオラボ（生物兵器研究所）と協力してきたからだ。

10

さらに興味深いことに、この論考はサックス教授の政治的発言についてもふれています。

サックス教授は他の分野でもその政治的勇気を発揮し、ウクライナ戦争や中国との関係については、ほぼ完全に画一化している世論に強く異を唱えている。

＊ **Ukraine Is the Latest Neocon Disaster（ウクライナはネオコンがつくり出した最新の大災害だ）**
https://consortiumnews.com/2022/07/01/ukraine-is-the-latest-neocon-disaster/Jeffrey Sachs • Consortium News • July 1, 2022

＊ **The West's Dangerously Simple-Minded Narrative About Russia and China（ロシアと中国にたいして西側がつくり出した危険極まりない単細胞的物語）**
https://www.commondreams.org/views/2022/08/23/wests-dangerously-simple-minded-narrative-about-russia-and-china Jeffrey Sachs • Common Dreams • August 23, 2022

国の支配階級に属し、かつ非常に高い地位にある人物が、主要な問題に関して政府が発表する主張とこれほど鋭く対立することはめったにない。

前述したように、メディアの典型的な反応は、このような潜在的に危険な離反者はブラック

リストに載せて無視することである。

一般に流布されている見解とは違ったコロナ論を展開しているサックス博士は、やはりウクライナ問題についても全く違った意見をもっているのだと感心しました。と同時に、私が今までおこなってきた言論活動に、改めて自信をもつことができました。

ザポリージャ原発攻撃についても、サックス教授は次のように発言しています。

＊US economist breaks ranks on nuclear plant strikes Jeffrey Sachs has called for Washington to demand that Ukraine stop shelling the Zaporozhye plant while blaming Russia
「ザポリージャ原発攻撃はウクライナが仕掛けた可能性が高い――ジェフリー・サックス」
http://tnmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1092.html（『翻訳NEWS』2022/10/19）

11

さて、このような権威ある人物の告発によって、ＮＩＡＩＤ（国立アレルギー・感染症研究所）所長のファウチ博士は身の危険を感じたからこそ、二〇二二年末の辞任を表明したのでしょう。

音楽配信サービスSpotifyの
超人気司会者ジョー・ローガン

しかし、そのような幕引きで今まで犯してきた犯罪を見逃すわけにはいかないと先手を打ったのが、先述のランド・ポール上院議員でした。ファウチ氏が辞任する前に、自分が犯してきた犯罪の証拠隠滅をはかる恐れがあると考えたからでした。

このような動きと軌を一にしたかのように、大手メディアに対抗して、すでに裏メディアの世界でも新しい動きが出ていました。

というのは、音楽配信サービスSpotifyの超人気司会者ジョー・ローガンが、「コロナウイルスと遺伝子組み換えワクチンについて嘘ばかりを垂れ流してきた民主党に見切りをつけ、次の中間選挙（二〇二二年秋）では共和党に投票しろ」と、Podcastを通じて助言したからです。

＊ Joe Rogan reveals 'lesson' of pandemic「ジョー・ローガン、パンデミックの『教訓』を明かす」
〈副題〉The top Spotify podcaster advised Americans to 'vote Republican' in the upcoming midterm elections
「音楽配信サービスSpotifyの超人気司会者が、次の中間選挙で『共和党に投票しろ』と助言」
http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1027.html（『翻訳NEWS』2022/09/11）

この記事は次のように始まっていました。

公式発表はまだないとしても、パンデミックが終わった今、少なくとも保健当局は、過去2年間を特徴付けたPCR検査の義務付けと絶え間ないPCR検査から撤退した。

これを暗に示して、ローガンは、「人々はいくつかの重大な誤りがあったことを認識し、もう同じことを繰り返さないだろう」と結論した。

「この撤退は、皆が得ることのできる最善の方法だ。しかし、廃業を余儀なくされ、シャッターを下ろし、何十年もかけて築いたものをすべて失った人々への補償については……皆はただ怒るだけで、何も得られないだろう」と彼は言った。

この記事はさらに次のように続いていました。

このような人たちに何を伝えるかとロジャースに問われたローガンは、笑いながら「共和党に投票しろ」と答えた。

スポーツコメンテーターであるローガンは、昨年に党籍を変更した人の3分の2が共和党になるという有権者層の「政治的変化」を説明した。

彼は、この最近のAP通信の記事を引用し、この傾向が米国のすべての地域に影響を与えていることを明らかにした。そして、この「政治的変化」が、下院で過半数を占める民主党の脅威

となっているだろうと指摘した。
ローガンは、フロリダ州知事ロン・デサンティスの決意を称賛した。
デサンティスが、多数の住民のために「ロックダウン」からフロリダを解放し続け、民衆の「自由」を守ると同時に、高齢者や弱者をウイルスから守ったからだと言う。
この共和党の政治家デサンティスは、企業を閉鎖しマスクとワクチンを義務付けることを拒否したため、ロックダウン派のアメリカ人から「デス（死神）サンティス」として悪魔化された。
だが共和党内の多くの人から愛され、このパンデミックで苦しんだひとたちの間に広まっている人気を利用して大統領選への出馬を考えていると噂されており、ローガンも以前この考えへの支持を表明していた。

12

このローガンの主張を裏付けるような、次のような研究が発表されていることも、ここで付け加えておきたいと思います。これは全米経済研究所（NBER）が今月九月一一日に発表した報告書で明らかにされたものです。

＊ Study points to deaths caused by COVID-19 lockdowns
「死亡はＣＯＶＩＤ-19ロックダウンが原因だった」と指摘する研究結果
http://tnmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1028.html（『翻訳NEWS』2022/09/11）

この副題は次のようになっていました。これを読むと、私の弟も「コロナウイルスではなくコロナ政策で殺された」という確信を、ますます深めるばかりです。

＊During the first two years of the pandemic restrictive measures led to tens of thousands of fatalities, researchers claim（パンデミックの最初の2年間、制限的なロックダウンが数万人の死亡を招いたと研究者は主張している）

この研究では「COVID-19のパンデミック時に17万人近くの過剰死亡を記録した。この過剰死はウイルスそのものが原因ではなかった。政府が施行したロックダウンの中で、肥満や薬物乱用、その他の死亡者が急増したためだ」と述べているからです。

13

しかし、Spotifyの超人気司会者ジョー・ローガンに関することで、もうひとつ興味深い事実があります。それを、先の記事は次のように紹介しています。

> またローガンは、COVID-19にかかったとき、イベルメクチンを服用したことも、同様に無責任だと非難された。
>
> CNNキャスターからは、「馬用駆虫薬」を食べていると非難されたのだ。イベルメクチンは

獣医が使う薬だとされていたからだ。

しかし、イベルメクチンが、インドやインドネシア、南米やアフリカで、コロナウイルス退治で絶大な効果をあげたことは、『謎解き物語』で詳しく紹介したとおりです。

その一方で、ノーベル生理学・医学賞受賞者の大村智博士と一緒にイベルメクチンを開発したはずのメルク社が、コロナ退治についてはイベルメクチン攻撃の先頭に立つことになりました。

なぜ、このような不思議なことが起きたかについても『謎解き物語』で詳述しました。しかし実は、ジョー・ローガンは、このイベルメクチンのおかげでコロナウイルスを撃退することができたのです。

このようにイベルメクチンは、ワクチンでは救われなかった多くのアメリカ人に希望の灯火を与えました。その裏にはＦＬＣＣＣ（ＣＯＶＩＤ-19緊急治療 最前線医師の会）に集う良心的医師たちの大きな努力がありました。

このことについても『謎解き物語』で詳しく紹介しましたが、ここにきて今またイベル

メクチンに関する新しい研究と論文が出ました。それを示すのが次の記事です。

＊ The COVID Pandemic Was Entirely Unnecessary. Cures were available. The medical profession is responsible for the murders of huge and growing numbers of people.

「コロナ・パンデミックは全く必要なかった。治療法はあったのだ。医療関係者は膨大に増え続ける殺人に責任がある。」

http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1172.html（『翻訳NEWS』2022/12/16）

ブラジルで８万８千人にイベルメクチンを投与する大規模臨床試験でイベルメクチンの有効性を実証したカデジアニ博士

14

この新しく発表された研究について、上記の記事は次のように説明しています。

この大規模な研究は、カデジアニ博士（Flavio A Cadegiani,MD,MSc,PhD）によって実施された。カデジアニ博士は、臨床内分泌学の修士号と博士号を持つ、内分泌学会の認定医である。

これはオンライン医療雑誌『Cureus』に水曜日に発表された査読済みの研究である。この研究は、ブラジルのイタジャイ市に住む８万８０１２人を対象に、厳密に管理された集団を対象におこなわれた。（中略）

イベルメクチンを予防薬として使用した人、あるいは新型コロナに感

染する前に薬を服用した人は、死亡と入院が大きく減少した。
この研究によると、イベルメクチンを常用している人は非服用者に比べて新型コロナによる死亡リスクが92％減少し、不定期の服用者と比べると84％減少した。
「入院率は、不定期の服用者および非服用者の両方と比較すると、常用服用では、１００％減少した」と本研究は述べている。
ふつう高齢者は、2型糖尿病や高血圧の有病率が高く、従って新型コロナの死亡リスクが本来は高いにもかかわらず、イベルメクチン常用者は、非常用者や非服用者に比べ、死亡率は劇的に減少した。

このような新しい研究が発表されたことを伝えてくれたのは、ポール・クレイグ・ロバーツ元財務次官のブログです。日付は、September 5, 2022となっていました。
したがって繰り返しになりますが、日本人が発明しノーベル生理学・医学賞まで授賞したイベルメクチンを日常的に使えるようにすれば、危険な遺伝子組み換えワクチンは必要なかったのです。
ところが我が政府は、ＷＨＯや巨大製薬会社の指示どおり、巨額の税金を使ってワクチンを購入し、国民の命を救うどころか、私たちの生活を脅(おびや)かし、ときには死に追いやって

きました。

〈本章のキーワード〉

CDC（アメリカ疾病管理予防センター）
ICC（国際刑事裁判所）
IAEA（国際原子力機関）
NIAID（国立アレルギー・感染症研究所）
アンソニー・ファウチ（NIAID所長）
ランド・ポール（上院議員、共和党）
リュック・モンタニエ博士（ノーベル医学賞受賞者、二〇〇八年）
ジェフリー・サックス博士（高名な医学誌『ランセット』のコロナ調査委員会委員長）
ジョー・ローガン、音楽配信サービスSpotifyの超人気司会者